



「百年かけて百年前の自然の浜を」

お魚殖やす植樹運動

北海道漁業協同組合連合会

森から海へ、そして再び森へ。自然の大きな循環

豊かな森は降り注ぐ雨を蓄え、養分豊富な地下水として川へそそぎます。その水は海へと流れ込んで魚たちに栄養を与え、豊かな海の恵みを育みます。さらに海からは、水蒸気が雨となって森へ戻り、森やそこに棲む生き物たちを潤します。そんな自然の大きな循環を再認識し、自然とともにある豊かな暮らしを蘇らせる取り組み。それが『漁民の森づくり運動』です。



魚付き林

豊かな森林がある水辺には魚が寄り付くとされ、海岸や湖沼・河畔などには昔から林がつくられてきました。これを「魚付き林」と呼びます。魚と森林の関わりは古くから知られていたことだったので。今は「魚付保安林」と言われ、無許可での伐採が禁止されています。

枝葉は直射日光をさえぎり、水温の上昇を防いでいます。

林から陸生昆虫などが川に落ち、魚の餌になります。

水生昆虫は羽化し河畔林で生活し、やがて川へ戻り魚の餌になります。

落葉、枯葉は水生昆虫や魚の餌になります。

海から川へ遡上するサケは、養を森へ運ぶ役目を担っています。

河畔林

川の流れて沿って続く河畔林は、魚たちに優しい環境を提供しています。木陰をつくって川の水温上昇を防ぎ、また、魚の餌になる昆虫類のすみかにもなっています。



暮らしと産業

自然を相手にする農業や漁業、林業などの一次産業にとって、水はなくてはならないもの。とりわけ海や河川などを直接利用する漁業は、どんな時代にあっても、豊かな水の環境があって初めて成り立つ産業です。そして、そこからもたらされる安全・安心な魚介類はさらにさまざまな産業を成り立たせ、私たちの生活を支えています。森を育み水を豊かにする森づくり活動は、ときを超えて私たちみんなの暮らしを守る取り組みです。



循環とともに…。



ホッチャレ(川に遡上したサケ)は熊など森の動物に食べられ、そのフンが森の栄養になります。

アは海の栄養になっています。

森林

森は、木々や葉、コケなどで雨水を受けとめ、いったん貯えてから徐々に川に流します。森の中で蓄えられた水は、土壌の栄養などをたっぷりと含んでいます。森がないと、山に降った雨水の多くはそのまま蒸発したり、栄養がないまま川に流れ出てしまいます。



植樹後保育

植林後でも、植え放しでは豊かな森は守ることができません。苗木を守り大きく育てるために、草刈りから枝払いまで、豊かな森を育てるための保育活動も行われています。

川

森から流れ込んだ栄養豊かな水を海へと運び、森と海をつなぐ役割を果たします。また、河畔林などから落ちた昆虫類や枯葉を受けとめ、水生昆虫や魚に餌を提供します。落ち葉もゆっくりと分解され、その栄養は森や川や海の栄養になります。



落ち葉は水生昆虫などの餌になり、水生昆虫などは魚たちの餌になります。

海

森から川を伝って流れ込んだ栄養豊富な水が溶け込んで、魚たちを豊かに育みます。また、いっしょに流れ込んだ木の葉がエサになるなど、海も河畔林と同じような役割を果たします。海からは大量の水蒸気が発生し、雨や雪となって陸地に戻ります。森、川、海を巡る水の大循環が繰り返され、自然界の大きな流れを形づくっています。



森から川を経て流れ込んだ枯れ葉なども海の栄養になります。

植樹されている主な樹

植樹活動では「ミズナラ」「イタヤカエデ」「ケヤマハンノキ」「ハルニレ」などの樹々が植えられています。



イタヤカエデの葉



ケヤマハンノキの葉

魚つき林 ～なぜ漁業者が樹を植えるのか～

「魚は森のあるところに付く」という考え方は、江戸時代から漁村では根付いていたといい、こうした森は“魚付林（うおつきりん）”と呼ばれてきました。豊かな森は降り注ぐ雨を蓄え、養分豊富な地下水として川へそそぎます。また、海岸林は強風から大地を守り、風雨による土壌の流出を防ぐ役割があります。

浜の漁師たちは、海岸林や河畔林をはじめとした豊かな森の存在が海の魚を育むことを経験から感じとっていたのです。

この考え方をもとに、昭和63年から、北海道漁協婦人部連絡協議会（現女性連）を中心に、全道各地で木を植え、森や林を大事に育てる取り組みが行われるようになりました。



連携・協働の取組 ～ともに手をたずさえて～

従来は交流の少なかった異業種間（農業・林業・漁業・消費者・学校等）とのつながりも広がってきています。



保育

木は植えたあとに、保育（下刈りや枝打ちなど）をしなければ、大きく育ちません。守り育てることも大事な取組のひとつです。



木育 ～木とふれあい、木に学び、木と生きる～

“木育”とは…

子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』取組。

子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育むこと。

“木とふれあう”とは…

「五感と響きあう感性」をバランスよく育むために、心の健やかな発達のために、木の道具を使うことや生活空間に木を増やすこと・木や森と積極的に関わることです。



“木に学ぶ”とは…

遊びや日常の中で、「モノを創造する知恵や力」を養っていくために、北海道の森林や道産の木材、それらを取り巻く社会環境を、学校や地域のさまざまな学びの中に取り入れることです。



“木と生きる”とは…

森と木を通じた暮らしの中から「人間が本来生きるための本質的な力」を呼び起こし、私たちの生活を木に寄り添い、共に生きるものにするのです。

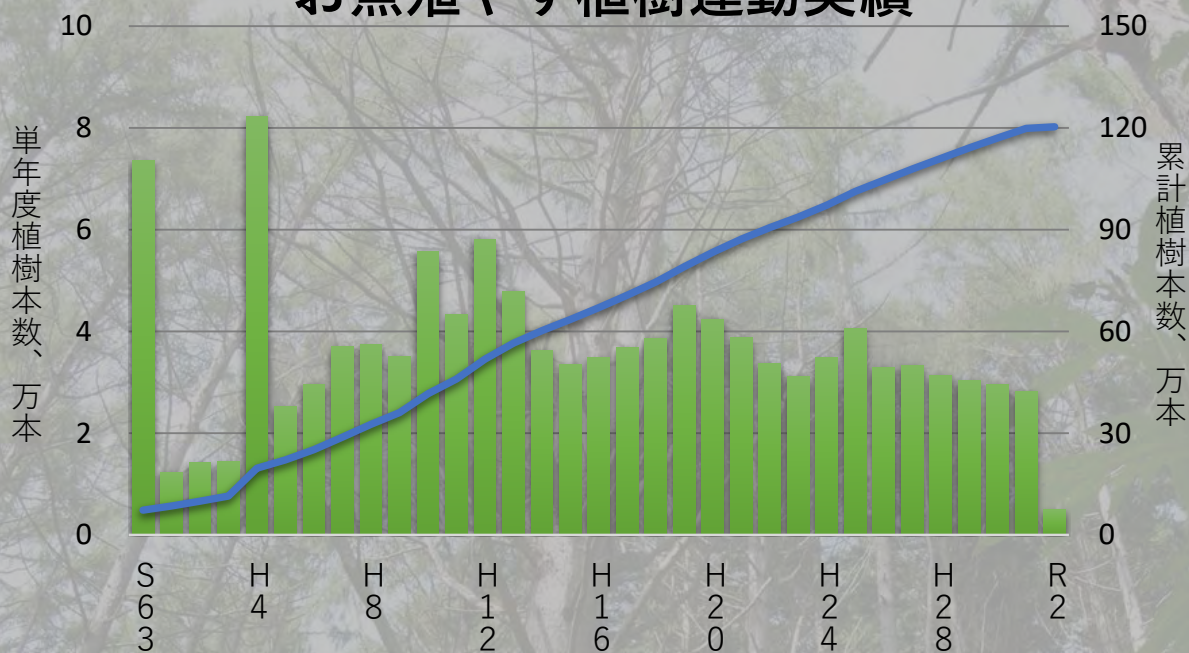


あゆみ

年月	おもな活動内容
S63.6	「札幌さけ科学館」敷地内に記念植樹
S63.9	全道の漁協婦人部が植樹活動を実施、この植樹活動を「お魚殖やす植樹運動」とする。参加95漁協婦人部、植樹本数73千本
H6.11	「お魚殖やす植樹運動」農林水産大臣賞受賞
H8. 4	道「海を育む森づくり事業」始まる (H8～12)
H9.4	北海道新聞社創立50周年「海を育てる植樹運動」支援事業始まる
H10.2	全漁連「全国漁民の森サミット」開催(於東京都)
H10.9	当別町道民の森内に「お魚殖やす植樹運動記念の森」植樹始まる
H13.4	水産庁の「漁民の森づくり活動推進事業」始まる (H13～17)
H18.4	道「豊かな海と森づくり総合対策事業」始まる (H18～20)
H21.4	道「食の環境を守る協働の森林づくり促進事業」始まる (H21～24)
H23.9	いきものにぎわい企業活動コンテスト 国際森林年特別部門 農林水産大臣賞受賞
H24.11	「お魚殖やす植樹運動」道新文化賞受賞
H25.4	道「小中学生等の森林づくり活動参加促進事業」始まる (H25～H27)
H28.4	道「地域と連携した森林づくり活動参加促進事業」始まる (H28～R1)
H28.5	「お魚殖やす植樹運動推進会議」発足
R2.4	道「北海道漁業協同組合連合会と市町村の連携による森林づくり活動」 始まる(R2～)
R2年度末	植樹累計本数 約1,204千本

植樹実績

お魚殖やす植樹運動実績

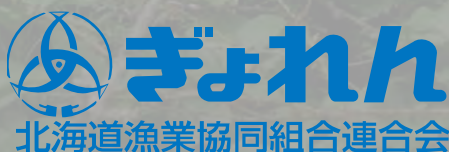


1,203,626本 (R2年度末現在)

ご協力いただいている団体・企業等(敬称略)

国土交通省北海道開発局	北海道森林組合連合会
北海道森林管理局	生活協同組合コープさっぽろ
北海道建設部	北海道漁協女性部連絡協議会
北海道水産林務部	農林中央金庫
北海道市長会	北海道漁業共済組合
北海道町村会	全国漁業信用基金協会 北海道支所
北海道農業協同組合中央会	共水連 北海道事務所
	北海道信用漁業協同組合連合会

百年かけて百年前の自然の浜を



TEL 011-805-1010 FAX 011-805-1011

<http://sakana-fuyasu.jp>